

【令和6年度 授業改善推進プラン】

板橋区立高島第一小学校

【国語】

■児童の状況	【話すこと・聞くこと】 ・粘り強い声かけにより、話をよく聞いて取り組むことができている。 ・静かに話を聞くことができるが、話の大事な部分や中心を押さえることができない。 ・全体の場で発表することが苦手な児童が多く、声の大きさ等話し方の工夫ができない。 ・発表に対する意欲に差がでてきた。発表の話形は、身に付いてきているが、話し合いの場によって応用することができない。 【書くこと】 ・おおむねひらがな50音が読めるが、読み書きが確実ではない児童も若干見受けられる。両者の差が大きい。 ・長音や促音などを正確に表記したり、文章の中で使ったりすることに課題のある児童が多く見受けられる。 ・順序に気を付けて文章を書いたり、伝えたいことを書いたりすることが少しずつできるようになってきた。しかし、語彙が少ないため、単調な文章になることが多い。 ・漢字の学習では、書き順や送り仮名、字形に課題が見られる。 ・カタカナ、長音・促音などの表記や、助詞・修飾語の正しい使い方が充分でない。 ・文章を書くことに自信がなくて、型が身につけていない、個人の語彙力の差が大きい。 ・既習漢字において正しく書くことが不十分である児童もいる。 ・書くことが苦手な児童が比較的多く、書く題材を見つけたり、自分で書き進めたりすることができない児童が多い。 ・既習漢字の習得が不十分で、丁寧に字を書く意識が薄い。 ・全体的に基礎学力が定着していない。特に、漢字の読み書き、熟語、主語・述語・修飾語、慣用句等の理解ができていない。 ・既習漢字の習得が一部の児童が不十分。 【読むこと】 ・毎日の音読に真面目に取り組むことができた。 ・長い文章になると、内容を正しく読み取ることができない。 ・家庭との連携で音読が上手になっている。 ・言葉のきまりや接続語の使い方が不十分である。 ・家庭での音読の取り組み方に差がある。家庭で取り組んでいる児童は上達している。 【語彙について】 ・語彙力が豊かでないので、表現に広がりが少ない。 ・語彙力に差があり、言葉についての知識(敬語)が身に付いていない児童が多い。 ・語彙力がないので、自分の考えや伝えたいことをうまく文章に表わすことができない児童がいる。また、文章の読解についても同様である。
■指導についての課題	・ひらがなの読み書きの学習時間の確保 ・個別指導の時間確保 ・漢字に関心がもてるように、言語環境をさらに整えていく必要がある。 ・主語、述語をおさえ、自分の身の回りの出来事について、順序を意識して文章を書いていく必要がある。 ・教材文だけでなく、図書の時間などで長い文章にも触れていく必要がある。 ・漢字の習得と文章を書くことに力を入れていく。 ・家庭学習を定着させ、音読、新出漢字練習等を通して語彙力を広げること。 ・書く単元で、順序立てて、個に応じた手立てが難しいこと。 ・学習内容が多いので、漢字や言葉についての学習の時間を確保することが難しい。 ・発表の場や話し合いの場を多く設定する。 ・児童の言語環境を見直し、整えていく。 ・書く指導を計画的に行っていく。
■授業革新推進に向けた具体的な方策	・ひらがなが読めない、書けない児童に対する個別支援 ・家庭学習や放課後を利用して、読み書きの繰り返し練習 ・家庭学習などを活用して、漢字の成り立ちや言葉集め、短文作りを継続して指導していく。 ・順序を表す言葉や、語句の意味を意識させながら読み進める習慣をつける。 ・音読の宿題と授業中の音読を引き続き併用していく。

	・「書く」では、文章の型や文章の組み立て方について引き続き指導していく。 ・接続語の使い方や言葉のきまりについて習得できるよう引き続き指導していく。 ・「聞く」では、一旦やっている事をやめて、話している人の方をしっかりと見ることを引き続き指導していく。 ・漢字やひらがなを丁寧に書くことを意識させ、正しく書き、宿題にも出して定期テスト等を通して引き続き指導していく。 ・音読の宿題と授業の音読を引き続き併用していく。 ・「書く」では、書こうとする意欲を引き出しながら指導にあたる。型や手順を示し、それにあてはめて書いていくようにする。 ・ノート指導を中心に漢字やひらがなを丁寧に書くことに意識させ、正しく書き、小テストの取り組みや宿題にも出して引き続き指導していく。 ・話すことでは、ペア学習・グループ学習を各教科で取り入れていく。 ・朝学習の時間を活用して、漢字や言葉の学習を行う。 ・家庭学習を定着させ、学習の習慣を身に付けさせる。 ・文章を書くための形式を提示することで、多様な場面で自分の考えを書くことができるようにする。 ・文章を書く際の目的意識・相手意識を明確にして伝えることができるようにする。 ・日常的に国語辞典や漢和辞典を活用し、言葉や漢字に対する興味、関心を高める。 ・事前指導と事後指導を十分に行い、文章に対する目的意識を高めると共に、お互いの文章を読みあい、感想を交流する時間を設ける。
--	--

【社会】

■児童の状況	・校外学習への参加が見送られているため、学習した内容を見学や体験等で深めることができず、学習意欲の低下がみられる。(ICT機器を使用した映像資料のみ活用) ・調べ学習には興味をもって取り組めるが、学習内容によって、児童の興味・関心・意欲に個人差が見られる。 ・資料を読み取る力は身に付いてきているが、そこから思考・判断し、社会的事象を見出すことが難しい児童が多い。 ・知識や理解に個人差があり、発表内容やノートの記述内容に課題がある児童が見受けられる。 ・自分の考えをノートに書いたり、発表したりすることが苦手な児童が多く、教師の説明や教科書の記述を受動的に理解しようとするため、知識・理解の定着につなげていない傾向がある。
■指導についての課題	・学習内容と日常生活がうまく結びつかず、興味・関心・意欲や知識・理解の個人差につながっている。 ・これまで得ているであろう知識が乏しく、資料やグラフから得られる情報を比較したり、読み取った内容から社会的事象を類推したりすることを苦手とする児童が多い。 ・ICT機器(個人用タブレット)を活用した授業展開について更に工夫していく。 ・調べ学習や体験的な学習のまとめでは、手にした資料等をそのまま引用しようとする事が多く、自分の考えを表現しようとする意欲が高まりにくい。
■授業革新推進に向けた具体的な方策	・学習のねらいを明確にし、導入で必要な時事問題や生活体験をしっかりと想起させることで、児童の興味・関心・意欲を高める。 ・ICT機器の活用方法を校内で共有したり、研修したりして、資料を大きく提示しながら、資料から読み取ることや比較することを明確にする効果的な発問の工夫をする。それにより、読み取る力を高め、社会的事象を理解させる。 ・用語や語句について、その結びつきを時系列や関係図などで視覚的に分かりやすく提示し、表現方法や用語を使いこなす力、社会的事象を知識として理解しようとする意識を高める。 【言語活動の充実】 ・調べ学習や体験的な学習のまとめとして新聞を作る際には、自分の考えや意見を書かせることで、社会的事象の理解を図るとともに、表現する力を高める。 ・児童の疑問や経験を大切にしながら学習問題を作ることで、共に課題を探究し学び合おうとする話し合い活動を目指す。

【算数】

■児童の状況	・10の合成・分解、計算にも問題のある児童がみられる。また、式の意味を理解していないことが多く、文章題を読み取って立式することに課題がある。 ・基礎的な計算力(くり上がりのたし算、くり下がりのひき算)が定着していない。 ・量感覚(時計、長さ、水のかさ)が十分に身に付いていない。日常の生活に生かそうとする姿が
--------	--

	見られない。 ・授業中に進んで発表したり、意欲的に練習問題に取り組んだりする姿が見られる。 ・九九は身に付いて、わり算は出来る児童は多くなったが、あまりのあるわり算になると、計算の中で、ひき算が出来ていない児童との差が大きい。 ・大きい時間になると、くり下がり、くり上がりが不十分である。 ・時刻と時間の学習で、60進法の理解が十分でなく、具体物の時計などを使わないと解答を求められない児童が目立つ。 ・文章問題をよく読み取っていない。 ・全体的な学力が低く、低位の児童は既習事項の確認をしても、なかなか新単元の学習が難しい。 ・個別指導が必要な児童が多い。 ・基礎的な計算ができない、計算が遅い児童がいる。(九九、わり算) ・学習内容を確実に理解している児童とそうでない児童を両極化している。 ・順を追って、ていねいに取り組むことができず、ミスが多い。 ・積み重ねて身に付けなければならない四則計算や数の決まりで苦手意識をもっている児童もいる。
■指導についての課題	・一人一人に目を向け、指導する必要があるが、そのための時間が確保できない。 ・基礎的な計算力を繰り返し学習する必要がある。 ・授業の中で既習事項を復習する時間を確保し、定着を図る必要がある。 ・量の感覚について学習したことを日常の場面に生かす機会を意図的に作る必要がある。 ・苦手な児童も楽しく学習できるよう、算数的活動を増やす。 ・時計では、日常生活での時間の読み取り方の経験不足が感じられる。 ・繰り下がりのひき算、九九の見直しが必要。特に6から9の段が不十分の児童がいる。 ・文章問題の読み取りが不十分である。 ・個に応じた手立てがその都度必要である。 ・既習事項の理解を深めるための手立てが必要である。 ・基本的な学習内容を確実に定着させる。 ・これから学習する単元だけでなく、単元に関わる既習学習を復習する時間を十分にとることができなかった。 ・文章問題において、一人で思考することが苦手な児童に十分に支援できなかった。
■授業革新推進に向けた具体的な方策	・文章の意味を理解できるように語句をまとめたりで読むことや、キーワードに着目させるように指導していく。 ・家庭と連携をとり、10までの加法・減法を確実に身に付けさせる。 ・授業の最初に既習事項の確認の時間を設定する。 ・具体物を操作しながら体験的活動を取り入れ、算数の学習の楽しさを味わわせていく。 ・他教科や日常生活でも、量感覚を意識させる活動を取り入れていく。 ・個に応じた指導の場の設定を行う。 ・日頃、時間の読み取りをさせていく。 ・文章問題で、大事な言葉に注目させて何を求めているのかをアンダーラインを引くなどして、解くことができるよう指導する。 ・ICT機器を活用して、スモールステップの問題の提示をしたり、図形の理解を促したりする。 ・既習事項をどのタイミングで提示、復習させるかを事前に計画する。 ・学力向上担当を加えた習熟度別少人数での指導のよさを生かし、個に応じた指導を行う。 ・基本的な数の処理を徹底して、復習も含め計画的に練習する。 ・少人数のクラス分けを十分に検討する。 ・ヒントカードや個別指導を計画的に行う。

【理科】

■児童の状況	・体験的な学習や実験に意欲的に取り組む。感染対策に気を付け、教室での実験も取り入れて意欲的に活動できた。 ・観察や実験が体験で終わってしまっている児童が多く、結果から考察までを結びつけることが難しい児童が多い。 ・観察や実験から得た科学的現象を自分の言葉で言語化してまとめることが苦手なため、実験結果などを一般化し、知識に結び付けることができない。
■指導についての課題	・日常生活の中から疑問を取り上げ、児童の思考の流れを大切にする学習課題の設定。 ・児童一人一人が実験の目的を確認する時間や予想をたてる時間、考察する時間を十分に確保すること。

	・実験を通して学んだ結果を言葉で説明し、実際の場面で使えるようにする。 ・問題文を適切に読み取り、聞かれたことに正確に答えられるようにする。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	・観察や実験の目的を確認する時間や予想をたてる時間を十分に確保し、導入から考察、まとめまでの学習意欲を持続させる。話し合い活動は出来る範囲で行う。 ・最新のニュースを取り上げたり、児童の日常生活とのつながりをもたせたりして、興味関心を高める。児童自らが事象の中から問いを見出せるようにし、学びに向かう力を育成する。 ・「めあて」を正確に把握させ、考察やまとめの際に、必ず「めあて」に戻って学習を続ける習慣を付け、学習活動のサイクルを身に付ける。 ・科学用語を積極的に授業の中で使い、児童自身が必要な用語を用いて実験や観察の結果を自分の言葉でまとめられるようにする。 ・観察や実験の「結果」と「考察：わかったことなど」をきちんと分けて考えさせ、自分の言葉でそれを表現する習慣を付けることで科学的思考のサイクルを身に付けさせる。 【言語活動の充実】 ・実験の予想やまとめを自分で文章化するための時間を確保し、科学用語に対する理解を深める学習場面を工夫する。 ・予想を立てたり、考察をしたりする場面では、科学用語の語彙力や実用力を高め、知識に結び付けていく。

【生活】

■児童の状況	・体験的な活動に意欲的に取り組んでいる。 ・学校探検や1.2年生合同の班活動で、積極的に関わる姿が見られる。 ・植物や生き物の世話や観察に、関心をもって取り組んでいる。
■指導についての課題	・語彙力や表現力に個人差があり、伝え合う活動を充実させるための基盤がしっかりしていない。気付いたことや考えたことを表現していく力を伸ばしていく必要がある。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	【言語活動の充実】 ・体験の前後に友達と意見を交流させ、語彙力や表現力を高め、伝え合う楽しさを味わわせる。 ・児童の気付きを認め、学級全体に広めることで、気付きの質や表現力を高める。 ・観察の時によく使う形容詞などを教室に掲示し、常に参考にできるようにする。

【音楽】

■児童の状況	・マスクを付けた状態で歌うのであまり声をしっかりと出すことができず、表現することに消極的になっている。 ・リコーダーや鍵盤ハーモニカの演奏も制約が多く、音を出しての練習はあまりできないため技能の定着ができない。 ・どの学年もとても落ち着いて学習をする態度が見られる。
■指導についての課題	・マスクを付けた状態での歌唱の表現方法 ・特に1年生と3年生の鍵盤ハーモニカ、リコーダーの初期指導が音をほとんど出せない状態では難しい。 ・2年生はキーボードの数が少ないため表現方法が限られてしまう。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	・歌唱活動では、曲にあわせてリズム打ちや、振り付けをしたり、指揮をしたりするなど歌うだけでは表現できない部分を補う活動をする。 ・リコーダー、鍵盤ハーモニカの学習の代わりにオルガン、キーボード、木琴、鉄琴での合奏を中心に行う。2年生は音楽室が開いている時には音楽室で行う。 ・ボディパーカッションなど身体を使ってのリズム学習を工夫する。 ・共有楽器を使用する場合は前後の手洗いの徹底、楽器の消毒を行う。 ・鑑賞活動の充実、普段より時間を少し多く取り、一人一人の考えを発表させ、よりくわしく映像なども加えて鑑賞活動を行う。 【言語活動の充実】 ・鑑賞の活動において、グループでの活動は控えるが、一人一人に考えを発表させることにより、全員で共有できるようにする。

【図画工作】

■児童の状況	・造形活動や造形遊びを楽しみ、意欲的に取り組むことができる。 ・自分や友達の作品のよさを伝え合い、気付いたことを言葉に表現できる。 ・技能面の苦手意識から不安が生じ、表現活動にスムーズに入れない児童がいる。
■指導についての課題	・様々な表現方法や学年に応じた道具等を使用する活動を通して、さらに意欲を高め、自分らしい表現を目指し、発想力や表現力を高めていく。 ・鑑賞学習で、題材や学習方法を工夫し、感じたことや思ったことを言葉に表す意欲を高める。 ・苦手意識を克服させ、自らの表現の良さに気付かせ、学習への意欲を高める。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	・意欲の高まりや継続ができ、自らの表現への自信が得られるよう題材を設定する。 ・表現の基礎・基本となる道具等の使用での技能習得に時間を充分かけ、活動を通して自信が得られるよう、個別指導を進める。 ・資料等の掲示を始めとし、活動の内容をわかりやすくしたり、活動での主となる技能の練習時間を始めに設定するなどして、制作に対する不安を取り除き、学習内容の理解を進め、活動へ入りやすくする。 ・学級担任との連携や学力向上専門員とのTT等の学習形態を取り入れるなど、個に応じた支援や道具等の使用における安全指導を進め、技能が習得できるようにする。 【言語活動の充実】 ・表現、鑑賞の学習を通して制作に向けての自らの思いや、他者の良さへの気付きなど、感じたことを言葉で表現する学習を進める。 ・それぞれの思いや良さなど、気付いたことを伝え合う学習を計画し、意欲を高め、感じ取る力の伸長を図る。

【家庭】

■児童の状況	・裁縫、調理といった学習に関する関心意欲が高い。 ・日常生活における裁縫や調理の経験にかなりの個人差が見られる。 ・技能面での個人差が大きく、そのつまずきが学習への意欲や態度につながっている。
■指導についての課題	・授業で学んだことを家庭に戻ってからの実践につなげていかなければいけない。 ・実習の楽しさが先行してしまい、学習のねらいや身に付けるべき技能の理解が不十分になってしまうことがある。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	・学んだ知識や技能を実際の生活に生かせるような課題の提示を行う。 ・担任等と連携して、チームティーチング等の学習形態を工夫することで、個に応じた支援を行い、技能を伸ばしていく。 ・学習や実習のねらい、基礎的基本的な理解や技能を意識させるため、導入や学習中の評価を工夫する。 ・家庭での協力を得ながら、学んだことを家庭生活に生かしていこうとする意欲を高める。 【言語活動の充実】 ・学習や生活の振り返りカードを活用したり、経過報告会などを設定したりして、友達と学び合い高め合う楽しさ味わわせる。

【体育】

■児童の状況	・動きのポイントを意識したり言語化したりすることが苦手とする児童が多い。そのため、より良い動きを工夫したり、友達の良い動きを発表したり文章化したりすることが苦手な児童が多い。 ・器械運動や陸上運動において、能力差が大きい。 ・楽しさが先行し、安全に気を付け、ルールを守ることの意識が低い児童が見られる。
■指導についての課題	・学校外での運動習慣の個人差や運動することに対しての実態を、どのように把握し、指導の工夫に生かしていくかが課題である。 ・能力差に応じて、個別な声かけをしたり、多くの動きや運動を経験させたりする必要がある。 ・運動に入る前に、めあてや注目する動き、ポイントを把握させる必要がある。 ・ゲーム、ボール運動領域では、勝敗を認める指導が必要である。 ・安全に気を付けたり、ルールを意識させたりする必要がある。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	・場の設定を工夫して、楽しんで運動できるようにする。 ・友達と関わり合いながら体を動かしたり自分の体力向上を実感できたりするような活動を取り入れる。 ・準備運動等で不十分な分野の動きや、主運動につながる様々な動きを取り入れていく。 ・能力に応じた様々な運動の場やルール、動きのポイントを明記した掲示物を用意する。また、動画を見せたり、自分の動きを撮影したりするなどICTを効果的に活用する。 【言語活動の充実】 ・学習カードを用いたふり返し活動を習慣化し、動きのポイントや、友達の良さなどを文章化でき

	るよう継続的に指導していく。 ・チームやグループでの話し合い活動を積極的に取り入れ、運動の様子や作戦などについて伝え合いながら学習できるようにする。 ・友達の良い動きを見付けて発表する機会を意図的に設けていく。
--	---

【外国語活動】

■児童の状況	・基本的なあいさつのやりとりやゲームなどは、楽しく活動している児童が多い。 ・ALTと積極的にコミュニケーションをとりようとする児童が多い。 ・高学年に進むにつれて、活動内容が難しくなるため、意欲に差が見られる。
■指導についての課題	「聞くこと」 ・歌やチャンツを帯活動として授業に取り入れることで、単語や表現方法に慣れ親しみ、身につけることができるようにする。 「読むこと」【5. 6年】 ・フレーズとして読むことができるように、話す・聞く活動を通して表現に慣れ親しませておく必要がある。 「話すこと(やり取り)」 ・授業を計画的に進め、児童が身に付ける表現方法を、單元ごとの場面設定の中からコミュニケーションの必然性をつくり出すことを通し、体験的に修得できるようにする。 「話すこと(発表)」 ・外国語に対する苦手意識や恥ずかしさなどから、積極的に活動できない児童への支援を工夫する必要がある。 「書くこと」【5. 6年】 ・書く活動に取り組む前に、話す・聞く・読む活動を通して単語や表現方法に慣れ親しませておくことで、書くことへの抵抗感を減らすことができるようにする。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	・担任主体で授業を展開できるよう、新しい教科書の教材研究を構築していく。 ・新学習指導要領の内容に沿った単元学習計画を立て、系統的に学習していけるようにする。 【言語活動の充実】 ・互いに教え合ったり、気付き合ったりできる教材や展開を工夫していく。 ・クラスルームイングリッシュを積極的に使い、互いに相づちを打ったり、共感したりすることで、積極的に関わろうとする意識を高める。 ・絵本を有効活用する。

【総合的な学習の時間】

■児童の状況	・ICT機器を活用した調べ学習や学習のまとめ、体験的な学習に興味をもって活動している。 ・校外学習では、興味をもって意欲的に取り組んでいる。 ・総合的な学習の時間でどのような学習をするのかを十分に理解できていないまま、学習に臨んでいる児童が見受けられる。 ・体験的な活動から自分の考えをもち、表現することが苦手な児童が多い。 ・調べ学習のまとめでは、手にした資料等をそのまま引用しようとする児童が多い。
■指導についての課題	・単元の目標、目的意識をもたせることによって、「何をするのか?」「何を学ぶのか?」「何を調べるのか?」という学習内容がどのようなものか十分にイメージさせる必要がある。 ・集めた資料を整理したり、資料から自分の考えを導き出したりする力を高めるために表現させたりする機会を多く与える必要がある。 ・指導内容の系統性を明確にしていく必要がある。 ・タブレット使用以外の調べ方にも広げる必要がある。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	・単元の導入の際に、「何をするのか?」「何を学ぶのか?」「何を調べるのか?」、ねらいやめあて、活動内容を児童にしっかりと周知し、理解させてから学習に取り組めるようにする。 ・調べ方やまとめ方の基礎・基本を中学年のうちにしっかりと身に付けさせ、高学年ではそれを活用しながら探求的な学習活動ができるようにする。 ・図書館司書や地域の図書館と連携し、調べ学習が行えるようにする。 ・地域の人材や見学場所を整理し、さまざまな体験活動や調べ学習が行えるようにする。 【言語活動の充実】 ・まとめの学習では、資料を活用しながら、自分の言葉で表現できるようにする。 ・自分の考えがもてない児童には、同じ・似ている考えなどを書かせたり、発表させたりする。 ・中間報告会や発表会を行い、メッセージカード等を活用しながら、お互いのよかったところや課題を伝え合う機会を増やす。

	・保護者や地域の人材を活用する際は、場面に応じた礼儀正しい言葉遣いをしっかりと指導し、取材能力やコミュニケーション能力を高める。
--	---